

模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年1月22日)

授業者：〇〇

範囲：金融政策

主な感想・代案

- まず初めに、二種類の模擬授業の準備、お疲れ様でした。意欲的な頑張りに、私自身も大変刺激を受けました。

【Aクラスに関して】

- 導入でお金の総数を考えさせる流れ、面白かったです。ただ、導入でもう少し「問い」を鮮明にさせてもよかったように個人的には思います。主発問となる問いが、バランスがいいと言えはいいのですが、もう少し疑問を促す問いだと、一時間を「知的」に受けられるのではないかと思います。
- ⇒ 私であれば、日本国内に存在するお金の量を話した後に、自分がお金の量を操作できるとしたら、お金を増やしたい？減らしたい？と聞きます。その上で、その理由を聞く。一方で、お金を増やしすぎると、前回の授業で習った「インフレ」が起こることを、写真などで確認し、「日本のお金の流通量を調整する日本銀行はどのような工夫をしているのだろうか？」という主発問にします。
- また、学力が高いクラスだとした場合、ワークシートに説明の文章量を増やし、適宜、穴埋め方式にしてしまうのもありだと思います。知識理解の授業と言えども、単に暗記しているだけでは身につかず、どこかでその知識を軽く活用する場面が必要となります（今の学習指導要領的にも）。そうした場合、その活動時間を捻出するには、やはり、知識を詰め込む場面の活動をいかに効率よく進めるかが重要になる。その点で言えば、大岡さんの授業は、生徒が一から板書する場面が多いので、ややコストが悪いような感じもします。飲み込みが早い生徒には、知識をバーツと説明して、知的な問いを後半で探究したい。
- ⇒ 例えば私ならば、ワークシートは極力作り込んでしまいます。キーワードのみを生徒が埋める形にし、教師は動画だったり漫画などを使って、簡単な説明をしてしまう。その上で、授業の後半では、新聞記事などを持って来て、「黒川総裁の量的緩和政策に賛成か、反対か？」といった問題を考えさせる。その際に、前半の授業で学んだキーワードを使って貰う。そういった展開にするのもありかなと思います。

【Fクラスについて】

- 導入での異なる工夫、面白かったです。
- お金を自分で作って AppleWatch を買いに行く、という場面について、生徒の問いを追究するような場面が欲しかった気がします。もう少しだけ「なぜそう思う？」と重ねて聞くだけで、生徒の多様な意見が聞ける気がしました。「なんでお金を作ると犯罪になると思う？」「お金を作れちゃうとどうい問題が起きるの？」「本当にみんな、偽札を使っていないと思う？どうやって見分けているのだろうか？」などなど。そこで何らかの答えを導くのではなく、深めるだけで、その後の展開に良い影響を及ぼすような気がしました。
- 展開で行ったお札の人名当ての作業は、それほど時間をかける必要がないかなとも思いました。大切なのは日本銀行を当てさせるところなので、極論、お札の人名を答えられなくても問題ないと言えは問題ない。複数のお札から「日本銀行」というキーワードを導き出せば、このプロセスは OK な気がします。

- むしろ、その後の「発券銀行」「銀行の銀行」「政府の銀行」の三つのキーワードをもっとシンプルにコミカルに伝えられるようにすると良いなあと思います。
- ⇒ 例えば、発券銀行の話は前半部分でわかると思うので、「日本銀行が二つの組織の強力なサポーターである」という話をするといいいのではないのでしょうか。お金がなければ誰かに借りるしかない。どういところで借りるかと言えば、銀行かサウ金か。例えばもし銀行がお金が足りなくなったらどうする？とか。政府の立場で「あ～お金足りない、やばい」となったら、だれに借りる？とか。そういった事例というかエピソードのような話を組み込むとより分かりやすくなるような気がしました。

【設定となる前提に関して】

- 公民科の場合、学力の差は、時として生徒の社会経済的な生活水準や今後の将来に影響を与えていきます。一概には言えないとはいえ、学力が高い層の子どもたちは恵まれた生活をし、学力が極端に低い層の子どもたちは不利益を被りやすい。そういったときに、公民科は何をしてあげられるか。この点が問われるような気がします。
- そう考えた時、今回の金融政策の学習は、学力の高低とは違う次元で、それぞれの生徒の人生にどのような意味があるのでしょうか？この問いはぜひ考えてみてほしい問いです。

※関連資料を配布します。